



これからの育友会の役割

～西彼杵高校の育友会活動～

長崎県立西彼杵高等学校育友会

会長 西村 和義

I 地域の学校

(1) 地域が創り上げた伝統ある高校

歴史は遡り大正時代、西彼杵半島住民の中等教育(当時中学校)に対する情熱と期待は相当なものがありました。その勢いは根強く、長期に渡って当時の町議会や県議会を動かし、戦後間もない混乱期の中で、「県立西彼杵中学校」としてその願いを結実することになりました。以来70年の間に、学制改革により高等学校となり、時代の要請によって家政科や夜間定時制分校も設置されました。その後、入学者数の減少に伴い、家政科閉科、定時制分校閉校など、時代とともに学校の在り様にも大きな変化がありました。



開学当時



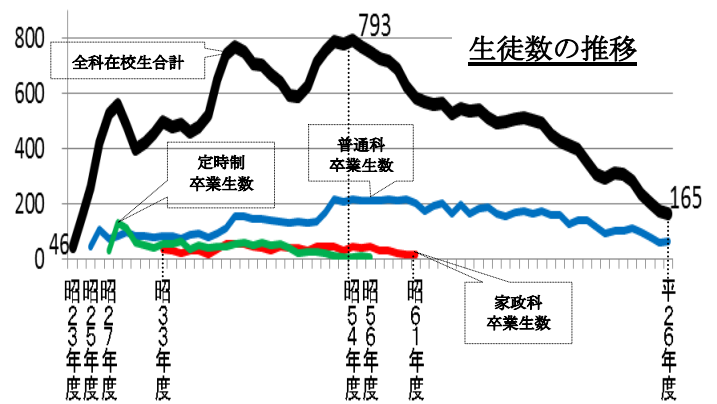
現在の校舎

70年間の本校の歴史は、その伝統を育み、全日制普通科高校として、これまでに1万1千人強の卒業生を輩出してきました。また、本校は角力灘、遠くは東シナ海を見渡す「萌多が丘」という小高い丘の上に立っています。本校の校章は、この環境で学ぶ西彼杵高校生に「広く青い海を青年の可能性、純粋性に喩え、広大な海原を航海するため、英知と努

力と忍耐を兼ね備えた青年になって船出して欲しい」という、若者の未来への発展飛翔を願って作成されました。

このように、西彼杵高校は歴史とこの地域での存在意義を持った学校であり、地域とともに創り上げられてきた学校です。

(2) 本校の現状

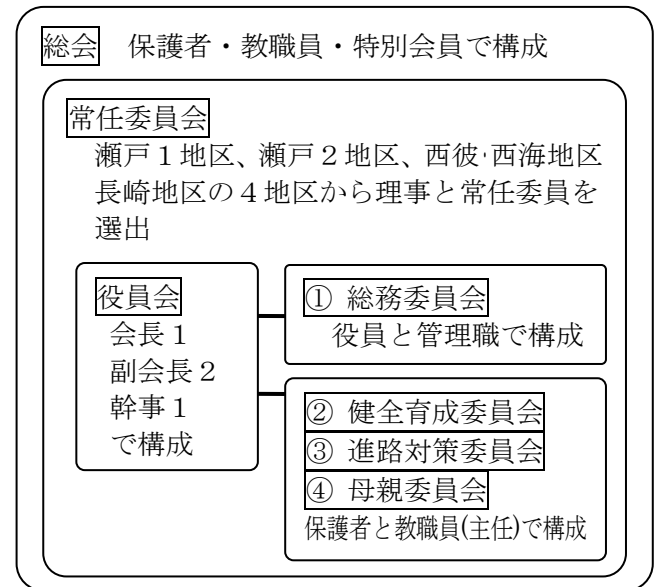


ここ数年、入学者定員に満たない年度が続いており、本年度は全校生徒165名の6学級という状況です。800人近く在籍者がいた昭和50年代前半と比較すると隔世の感があります。西海市内の人口減少に伴う入学者の減少や他市の高校への進学などが原因であるということもありますが、生徒数が少なれば少ないなりの学校としての在り方もあるのではないのでしょうか。

毎年、9月初旬に体育大会があり、他校と同様、全学年による集団演技や応援合戦があります。小規模ではありますがしっかりと全体がまとまり、清々しくも迫力ある演技が披露され、かつ礼儀正しく素直な行動に好感触も抱きます。そのような様子を見ていると、小規模校ならではの一人ひとりが輝ける場がこの学校には存在しているように感じます。

学校としても小規模を活かした方向を模索

育友会組織図（略図）



する具体的な取組が考えられているようで、『学校改革プロジェクト委員会』なるものを立ち上げ協議に入っているようです。是非、現状を踏まえた改革が成功するように、育友会としても一役を担いたいと考えております。

(3) 創立 70 周年を迎えるにあたって

本校は、平成 28 年度に創立 70 周年を迎えます。その年には、県立鶴南特別支援学校高等部西彼杵分教室も設置されます。新たな枠組みが加わり、地域の学校としての存在価値もさらに高くなるものと考えられます。

西彼杵半島の地域住民にとって、様々な可能性を秘めた全日制普通科課程の学校であり、また今まで遠方まで通わざるを得なかった特別支援を要する子どもたちにとって、地元で支援を受けられる学校であり、それぞれに大きな意味と意義のある学校として新たにスタートできる年になるものと思います。

地域の「誇り」としてこの地に存在し続けるために、育友会としてこれからの西彼杵高校の発展にどのように取り組むべきかが重要な鍵になってくるものと思います。

II 育友会活動の現状

(1) 活動方針

本校の育友会は、学校・家庭・地域社会が一体となって生徒の教養と福祉の増進を支援し、本校教育の振興を図ることを目的としています。

(2) 専門委員会

常任委員会の中に各種委員会があり、各々の分野の取組を企画・実践します。それらの委員会の役割は次のようになっています。

① 総務委員会

- ア 会の会則、諸規定等、会の運営に関すること
- イ 事業計画・報告、予算、決算、負担金等に関すること
- ウ 各委員会活動間の調整
- エ 他の委員会の所掌に属しないこと

② 健全育成委員会

- ア 高校生の健全育成事業及び活動に関すること
- イ 高校生の交通安全活動の推進に関すること
- ウ 社会教育関係事業に関すること
- エ その他、環境浄化などに関すること

③ 進路対策委員会

- ア 高校生の進路（進学・就職）等に関すること
- イ 情報の収集・調査・研究に関すること
- ウ その他、高校生の進路対策に関すること

④ 母親委員会

育友会の活動のうち、母親が中心となって推進する学校行事への支援事業に関すること。

<月ごとの各種事業>

月	行 事
4	育友会入会式 常任委員会
5	育友会講演会・総会 総会報告会 常任委員会
7	高校生さわやか運動 レクレーション大会
9	常任委員会
10	高校生さわやか運動
11	文化祭(育友会食物バザー)
1	常任委員会
2	耐寒競歩大会(育友会炊出) 研修旅行
3	高校生さわやか運動 常任委員会

(3) 育友会講演会・総会

以前、総会への出席率が20～30%台で、非常に低迷していました。そこで当時の総務委員会で協議し、総会の数日後に報告会を開催するようにしました。その結果、総会と報告会を合わせると出席率が毎年70%を超えるようになりました。また総会の前に音楽鑑賞会や講演会も行っています。これは保護者にたいへん好評を得ています。今後もさらに工夫を重ね、保護者の学校への関心を高めていかなければならないと考えています。



育友会総会

音楽鑑賞会



(4) 高校生さわやか運動

健全育成委員会が中心となって取り組んでいるものが、各学期に1回1週間の日程で行われる「高校生さわやか運動」での挨拶運動の展開です。委員会のメンバーが毎日交代しながら、早朝校門の前で、登校してくる子どもたちに挨拶を行います。生徒会の生活委員会と共同して取り組む運動ですが、子どもたちはたいへん気持ちの良い挨拶をしてくれます。



(5) 文化祭・耐寒競歩大会(炊き出し等)

母親委員会が中心となって行う文化祭の食物バザーや耐寒競歩大会の炊き出しは、子どもたちが待ちわびる取組の一つになっています。日ごろの母の味を学校行事の中で食すると、また格別の味わいがあるのかもしれない。

今年度の文化祭は、これまでとは少々異なり、「誇り」をテーマにした新生「西彼杵高校」の誕生とも言えるものでした。各クラスの「劇」を中心に、「地域と溶け合う高校」として新しい企画を取り入れたものになりました。雪浦地区で毎年5月の連休を中心に開催され、多くの観光客を引き込んでいる『雪浦ウィーク』と連携して、「雪浦ウィーク in 西彼杵高校」を企画・開催したものです。地域に根ざした高校として、再度地域に目を向け、深く地域を知ることによって学校の存在意義を確認することになるものと思

います。

地域との連携は、育友会としても大いに歓迎することであり、学校・家庭・地域社会の三位一体の理想的な教育ができるものでもあります。今後も地域の様々な行事や取組と一体化して学校行事などに取り組めるように育友会も協力していくつもりです。



(5) 研修旅行

最後に研修旅行を紹介します。進路対策委員会を中心に企画する研修旅行では、子どもが将来進学したり、就職したりする大学・専門学校や企業を実際に訪れて見聞を広げる取組です。一昨年度は福岡県の大学の見学を行いました。昨年度は県内の大学や専門学校を訪れ、子どもたちの今後の進路選択の一助になりました。